

とびこむ

『現場主義』



やります。

行政運営に「だらう運転」は禁物。「机上の議論より現場百回」です。現場に出向き、音・色・匂い・手触りを五感で腑に落ちるまで体感し、いつでもどこでも誰とでも、真摯に耳を傾け、あるいはアンケート調査を実施して、真の住民ニーズを自分のアタマで考え抜いて、地に足のついた議論をする。くまもとに必要な「議員力」の基本です。

- 毎年、独自のアンケート調査を実施して、真の民意を県政に反映させます。
- 現地調査や関係者ヒアリングを積み重ね、それらを随時、ネット・広報紙・住民集会を通じてレポートし、議会と県政で「見える化」します。

今、県議がすべきじゃない。高島和男だからできるじゃない。



くわっける

『コミュニケーション力』



政治や行政の信頼回復も、海外との経済交流も、眼の前の「生身の人間」にホンネで向き合うことから始まります。ある時は皆さんの意見を取り纏め、またある時はややこしい行政の言葉をかみ砕き、タテマエ論には蛮勇をふるってホンネの議論を投げこむことで、住民と行政の垣根をほらい、市と県を結びつけ、九州の広域連合によって熊本とアジアを結び付ける、そんな「架け橋」となります！

- 市議8年の経験をベースに、市政と県政の堅固なスクラムを実現します。
- アジアに向けた、九州各県の広域ネットワーク確立に取り組みます。

やります。

これからは突出した個性をもつ人・マチ・組織だけが生き残る時代です。行政の常識は世間の非常識。「とっけみにゃー！」を恐れることなく、がんじがらめの前例主義や古い仕組みを取っ払い、官民間わず、埋もれた地域資源や突飛ないアイデアを掘り起こし、くまもとの「元氣」に火をつけます。

- 市民感覚を行政施策に持ち込む「まちづくりアイデアコンテスト」「マチの“元氣功労者”顕彰大会」の県市共催を目指します。

やります。

かきまぜる

『アイデア』



政治が劇場化し、票集めの政策ばかりがマスコミを騒がせるなか、そんな浮ついた議論の外で、人々の生活は淡々と続いています。地方行政は、そんな住民に寄りそうものであるべきです。私はこれまで同様これからも「継続は力なり」の初心を忘れることなく、ねばりにねばって、10年単位の政策に辛抱よく取り組みます。ねば一ぎぶあっぶ！

- 子供達の「生きるチカラ」を育むには、学校に「個性」と「自信」が必要。そこで、熊本の全高等学校が個性を競う「一校一品運動」を立ち上げ、広げていきます。生徒・OB・親・教師の全てが、偏差値では測れない魅力を自覚し認め合う、そんな社会を作りましょう。

やります。

ねばる

『一貫性』



★「出し」の表情や市民の意識を確認し体感するため、熊本の4つのグリーンセンターと、「ゴミ有料化先進地の東京都八王子市で」「収集を何度か体験しました。」



★「出し」の表情や市民の意識を確認し体感するため、熊本の4つのグリーンセンターと、「ゴミ有料化先進地の東京都八王子市で」「収集を何度か体験しました。」

★保護司の活動 犯罪を少しでも減らすため、3年前から保護司として、受刑者の社会復帰と再犯防止を地道に支援しています。



★熊本システムマシン H20年の議会質問以来の提案が実を結び、お城を中心に沿道の全てを巻き込むお祭りが誕生しようです。熊本の元氣を爆発させ、滞在型観光を呼び込みます。

★田迎小の分離 市会議員に立候補する前のPTA時代から足掛け10年近い取り組みで、ようやく実現にこぎつきました。当時小学生だったわが子も今や大学生と高校生。成果を出すには時間とねばりが必要でした。



★人の輪をつくること、そして笑顔を見るのが大好きです。多くの方の支援に恵まれて7年間、参加300名の方の汗と笑顔、大会のあとに「お疲れ様です」。



★9年間、毎日かかさず日記をつけてウェブ公開しています。議会質問や視察レポートも公開しているので、御覧下さい。

高島和男の活動紹介